

## 普遍教育の教育課程編成・実施の方針

2022. 4. 1

全学教育センター

### 千葉大学における普遍教育の役割と目的

千葉大学は、グローバルな視点から積極的に社会に関わり、現代社会の様々な課題を解決するための創造的・独創的研究を展開して、高い教養、専門的な知識・技能、柔軟な思考力と優れた問題解決能力を備えた人材を育成することを教育目標としている。

専門教育とともに学士課程教育を担う重要な柱である普遍教育は、大学全体の教育課程編成・実施の方針を前提に、以下に掲げる二つの目的の達成を目指す。

- 1 国際化、高度情報化した現代社会に積極的に参画できる人材の育成を目ざして、「幅広い視野の醸成」、「批判的精神の涵養」、「豊かな教養に裏打ちされた全人的な人間性の陶冶」という普遍的資質を養う。
- 2 広い視野から学問に対する興味・関心を喚起し、その関心の深化と拡大を通して、学生個々が選択した専門分野の学問的・社会的位置付けを理解する能力を養う。

### 普遍教育の教育課程編成・実施の方針

これらの目的の達成を目指して、幅広い専門領域で高度な教育研究を行っている千葉大学全教員の最大限の協力を得て、普遍教育に、国際発展科目群として英語科目、初修外国語科目、国際科目を、地域発展科目群としてスポーツ・健康科目、地域科目を、学術発展科目群として教養コア科目、教養展開科目、数理・データサイエンス科目を、専門教育の基礎を担う科目として共通専門基礎科目を開設する。

「英語科目」は、高等学校修了時まで学習した基礎的な知識をさらに深化させて、それにふさわしい高いレベルの運用能力を身につけること、またその運用能力の育成を通して、異言語文化を体験し、理解し、異なる世界を発見し、豊かな人間形成に資することを目的とする。

「初修外国語科目」は、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語(韓国語)・スペイン語・イタリア語の運用能力を育成し、併せて、多様な言語文化を体験、理解し、多様な価値観と異文化を尊重する姿勢を身につけ、真の国際人の資質を身につけることを目的とする。

「国際科目」は、国際社会での活動や多文化共生社会で求められる国際認識や文化理解など、国際化する社会で生きていくために基礎となる考え方を学び、国際的な視点を養うことを目的とする。

「スポーツ・健康科目」は、スポーツ種目を題材とした実技実習形式の授業を中心に、健康増進や人とのかかわりについて理解を深めるとともに、自分の「からだ」を通じた知を形成し、実践力の育成を目的とする。

「地域科目」は、社会の一員として地域と関わりながら課題を主体的に設定し解決するマインドを育てることを目的とする。

「教養コア科目」は、「論理コア(論理・哲学・社会)」、「生命コア(生命・心理・発達)」、「文化コア(文化・芸術・歴史)」、「環境コア(環境・生活・科学)」の4つの領域について、これから大学で何を学んでいくのか、何を学ぶべきなのかを、全学部の教員が自身の学問を

通して初年次の学生に伝えることを目的とする。

「教養展開科目」は、教養コア科目の履修を通して喚起された学問への興味・関心をさらに拡大・深化させ、豊かな教養へと結びつけることを目的とする。

具体的には、教養展開科目の履修を通して、隣接する領域についての知見を深め、異なる学問世界への視野を広げるとともに、学んだ知識を経験として自分のものにし、自ら課題を見だし、解決する能力を育てていくことをねらいとする。

教養展開科目では、授業科目をテーマ（「学術研究の現場を知る」、「データを科学する」、「自然科学を学ぶ」、「キャリアを育てる」、「千葉大学の環境をつくる」、「ジェンダーを考える」、「コミュニケーションリテラシー能力を高める」、「世界とつながる」）でグループ化し、学生の授業選択と履修の指針とする。

「数理・データサイエンス科目」は、情報処理・データ分析能力を養うとともに、コンピュータ・ネットワークの原理と情報技術が社会において果たす役割や情報セキュリティ・情報倫理の課題についても理解することを目的とする。

「共通専門基礎科目」は、「数学・統計学」、「物理学」、「化学」、「生物学」、「地学」の5分野で構成し、理系（理学部、医学部、薬学部、工学部、園芸学部、教育学部（一部））学生が、学部・学科等で提供される学問分野独自の専門的教育を学ぶための基礎力を養うことを目的とする。

普遍教育の目的を達成するため、これらの科目を通じて以下に掲げる力を培う。

#### 知へのいざない

・知識力      ・探究力      ・技術力      ・情報力      ・批判力

#### 人間のふるまい

・倫理観      ・実践力      ・社会性      ・自然観      ・創造性

#### 社会とのかかわり

・国際力      ・地域力      ・生活力      ・指導力      ・主体性

### 普遍教育における「学修成果の厳格な評価」のために

普遍教育における学修成果の評価は、上記目的を踏まえ、各科目群の特性を考慮しつつ、以下に基づき行う。

- ・事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。また、成績評価を透明かつ公平に行うために、大学全体で採用されている GPA 制度を評価の前提とするとともに、事前・事後学修の明示等により、単位の実質化をはかる。
- ・講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- ・実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。